



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〔第三二七号〕

大暑^{たいしよ} 七月二十二日

花手水

今年梅雨末期の豪雨が長く続き、梅雨明けが遅くなりました。

それでも、我が家では自粛期間に庭に植えた夏野菜が次々に花を開き、そして実を結ぶようになりました。

黄色い星形の花を咲かせたミニトマトは、実をつけました。毎朝、真っ赤なものを選んで、収穫しています。トマトは当初食用ではなく、観賞用であったようで、この赤い色はリコピンと呼ばれるカロテノイドの一種によるものです。そして、茄子も紫の花をつけました。「茄子の花と親の意見は千に一つも仇はない」ということわざ通りに、茄子の花には無駄がなく、必ず実を結ぶといわれます。古くから身近にあるせいか、茄子は実だけでなく花も俳句に詠まれています。「葉の紺に染りて薄し茄子の花 高浜虚子」。茄子は紫色の花から、紫色の実がなります。なかなか収束しないコロナ禍、豪雨と不安を除けない日々が続きますが、次々と咲く花には心が晴れます。

先日仕事で訪れた高野山のふもとの神社では、手や口を清める手水舎^{てみずしゃ}の水面に紫陽花の花が浮かべられていました。

感染防止として神社では手水が使えなくなっていますが、それを手水禁止とは書かずに、紫陽花を飾っていたのでした。ほかの神社でも「参拝される方の癒やしになれば」と花店に依頼して一つの水鉢に四、五種類の花を浮かべ、週末に入れ替えを行なっているようです。

それを「花手水」。「はなてみず」「はなちようず」と呼びます。その美しさは思わず撮影したくなるほどで、SNSでも話題となっています。本来、手水は神前に参る前に手などを清めるもの、花手水で、心を清めてもらったように感じました。

文 千種清美



おかげの里便り

五十鈴塾

○『夏の星見と惑星探査』

夏の星空には、夏の大三角やさそり座など見どころがたくさんあります。さらに、この夏は木星と土星が加わってさらににぎやかです。

晴れたらレーザーで夏の星座をたどったり、望遠鏡で木星や土星をご覧いただきたいと思います。

木星や土星にはボイジャーやカッシーニなどの探査機が送り込まれて大活躍をしてきました。また、秋に最接近となる火星には周回機や探査車が活躍しています。惑星探査の歴史と成果をお話します。

と き／8月6日(木) 18:30～20:30

講 師／毛利 勝廣 (名古屋市科学館主任学芸員)

参加費／一般1,650円 会員1,150円 (和菓子付き)

場 所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

五十鈴茶屋

○節気菓子

ごさ しらはま
御座の白浜

御座の白浜は、伊勢志摩で随一の海水浴場。

白桃の羊羹にペパーミント風味の錦玉を重ねて、その景色を表現しました。

あき がお
朝 顔

朝まだきの庭で、しっとりと露を置く朝顔。

白餡を外郎(ういろう)で包み、朝顔の姿に仕立てました。

あら いそ
荒 磯

荒磯に潮のしぶきが舞い散る雄々しい様子を表現し、羊羹には特産の『あおきのり』を練り込みました。